

ドクター メモ

急性アルコール中毒

危険を知り予防を

急性アルコール中毒は、もともとアルコール摂取により一過性に意識障害を生じている状態を言い、**酩酊**(めいせい)(酒酔い)と同義でした。しかし、重症の急性アルコール中毒の対処、予防が急務となったため、生命の危険があるような状態を急性アルコール中毒とするようになりました。アルコール血中濃度が上がる、吐物を喉に詰まらせ、窒息することもあります。さらには、**昏睡**(こんすい)から死に至ることもあります。

救急車で搬送されてくる急性アルコール中毒患者数は、ここ数年は減少傾向にあります。毎年12月は多い傾向があります。また、週末の件数は他の曜日の約2倍になっています。全体的には男性が多く、年齢では20代が最も多いようです。

ゆっくり飲酒していれば、中毒症状も徐々に出現し、危険な状態になる前に飲酒を

中止することが可能でしょう。しかし急速に飲酒すると中毒症状が出現する前に大量に摂取し、重症化してしまいます。この典型例が「一気飲み」です。

飲酒経験が少ない若者は、どれくらい飲酒量でどれくらい酔うのかよく知りません。周囲の勧めを断り切れず、一気飲みするような状況が生じやすいのです。

激しい嘔吐などの後、呼びかけても反応しない、呼吸数の減少、失禁などがあれば、診療・治療が必要になります。放置して重大な結果を招いてはいけません。

人生これからという時に、急性アルコール中毒によって命を落とすという悲惨な事故が繰り返されてきました。年長者も含めてこの危険を認識して急性アルコール中毒を予防し、事故を再発させないことが重要です。

吹田市医師会 大場 次郎